



学校だより 9月

横浜市立新井小学校
No558
令和8年8月31日
TEL 383-3455
FAX 381-7372

(URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/arai/>)

自分の命を自分で守り、共に支え合う大切さ～自分ごととして学ぶ～

長い夏休みが明け、学校に子どもたちの明るい笑顔と元気が戻ってまいりました。暑さが残る日々ですが、やはり学校は子どもたちが主役であると改めて実感します。

さて、9月1日は「防災の日」です。大正12年(1923年)9月1日に発生した関東大震災を契機に制定されたこの日ですが、近年は全国各地で深刻な自然災害が相次ぎ、「防災」という言葉の持つ重みが一層増していると感じます。

特にこの夏は、自然の脅威をまざまざと見せつけられる出来事が続きました。令和8年熊本地震、令和8年8月千葉豪雨は、私たちが暮らす社会に大きな衝撃と深刻な被害をもたらしました。地震によって平穏な日常生活が奪われた風景や、線状降水帯による激しい雨で街が冠水し、多くの避難を余儀なくされた状況をニュースなどで目にし、言葉を失った方も多かったのではないのでしょうか。被災された方々へ心よりお見舞いを申し上げますとともに、犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表します。

これらの災害は決して他人事ではなく、私たちが暮らすこの地域でも、同じような地震や豪雨が起きてもおかしくありません。災害において、学校が果たすべき最優先の役割は、子どもたちの安全と命を守ることにあります。本校では、日頃から計画的な避難訓練や防災教育に取り組んでいます。その一環として、8月31日に大地震を想定した防災訓練を実施いたします。(地域においては、10月18日(土)に「地域防災拠点訓練」が行われる予定です。)

災害が発生したとき、子どもたちに求められるのは「自分の命は自分で守る」という「自助」の意識です。ここで特に大切なのが、「災害直後の対処」です。地震であれば「物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所」へ頭を保護して身を隠す行動をとること、豪雨であれば冠水した道路や増水した河川に絶対に近づかない判断をすることなど、発生した瞬間に命を守る避難行動をとらなければなりません。

次に重要となるのが、「避難後の対処」です。激しい揺れや浸水が収まった後も、余震や二重災害の危険が潜んでいます。パニックにならず、落ち着いて周囲の状況を確認し、安全な場所にとどまること、あるいは指定された避難場所へ確実に移動することが求められます。

避難した後は、周りの人と声を掛け合い、助け合う「共助」が命をつなぎます。高学年児童が低学年の子の手をとって移動したり、地域の避難所で自分にできることを考えたりするなど、互いを思いやる行動が地域の大きな力となります。

自然災害を一律に止めることはできませんが、日頃の意識と事前の準備、そして適切な行動によって被害を抑えることは可能です。「備えあれば憂いなし」という言葉の通り、いざという時に正しく行動できるよう、学校・家庭・地域が一体となって防災意識を高めていくことが重要です。

この機会に、ぜひご家庭でも「通学路の危険個所の確認」「家族間の連絡方法」「非常用持ち出し袋の中身や期限の点検」などを話し合ってみるはいかがでしょうか。

子どもたちの健やかな成長と命を守るため、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。